

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

グローバル社会を生き抜く力だけでなく、真のリーダーとして世界を舞台に活躍でき、人類に貢献できる人材育成をめざす

- (1) 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力
- (2) 多文化、異文化を受け入れることのできる深い包容力と鋭い人権感覚（心のグローバル化）
- (3) 5年後、10年後を見通す洞察力と世界を見据えた視野の広さを併せ持ち真に世界でブレイクスルーできる力
- (4) 生徒の希望する進路実現が図れる学校として、生徒・保護者・地域の願いに応えられる学校をめざす。  
また、情報発信に努め、広く府民に理解される学校にする。
- (5) 「挑戦」と「成果」をめざし、進学のみならず色々な大会やイベントでの実績を出す。

## 2 中期的目標

本校の教育活動の中心である国際教育と理数教育の2本柱のもと、生徒たちの学習意欲を高めつつ、生徒たちの将来に向けた夢と希望の実現をめざして、「国際社会に貢献できる人材」と「科学技術立国をリードする人材」の育成を図ることとする。下記の中期的目標を達成したい。

## 1. 学力向上の取組み強化

国際科学高校に改編後、国公立大学への進学者数は現浪合わせて50～70人で推移してきた。本校のほとんどの生徒は入学時に国公立大学を希望している。しかし年々最終的に指定校推薦を希望する生徒が増加している。最後まで国公立受験をめざせるように、カリキュラムの見直しや、学校内部の指導を徹底するとともに、教育産業との連携を強化し、3年間を見通せるスケジュールを作り、生徒の進路実現が図れるよう学力向上の取組みをいっそう強化する。生徒の希望進路の実現をめざして、国公立大学合格者数は、25%増以上を達成する。

## (1) 「わかる授業」をめざして、教科指導力を向上させる。

授業アンケートの活用をさらに図るとともに、全教員に対し年3回以上の相互授業見学を行う。また、特に新任教員や経験の少ない教員の増加に対応して教科指導力の向上をめざす公開授業や研究授業等を実施する。授業アンケートにより、生徒の評価を十分獲得できない教員について、分析と対策を組織的に検討する。ICT機器を活用した授業は増加傾向にある。効果的な活用法の開発など、一層指導方法の工夫・改善を行う。

## (2) 進学講習の充実を図る。

進路実現に向けた校内での進学講習を充実させるため、2年生からの講習を企画するほか、5教科での講習を開始する。また、自習室の活用をさらに充実させる。これまでの土曜日の教育産業による「北島講習」を積極的に推奨し、開講クラスを維持しつつ質の向上を図る。

## (3) 引き続き、自習室の活用促進を図り、早朝・放課後での利用時間の拡大と利用者数の20%増をめざす。特に1年生・2年生への利用拡大を促進する。

## 2. 国際・科学高校としての取組み強化

## (1) 「骨太の英語力」養成事業を活用しTOEFLに力点を置く。本校は日常的に英語を使う環境があり、英語でのディベート、プレゼンテーション、スピーチ等の国際・科学高校としての英語学習を行っている。今後府の施策を踏まえ、本校が行ってきた教育にプラスする形でSETの大きい活用を行い、TOEFLを導入した教育を一層推進する。成果としてはスコア80以上を4名、60以上を25名とする。また保護者の要望が強いTOEIC対策も継続して行う。

## (2) 国際交流・海外語学研修

本校の国際交流活動や海外語学研修に対する生徒・保護者の期待は大きい。平成24年度から拡充したアメリカ・シアトル語学研修、カルフォルニア交換留学、ニューヨーク交換留学、アジアフィールドスタディツアーの4事業を新規に行い、従来から行ってきたオーストラリア語学研修、韓国（チョンダム高校）、台湾（中山女子高級中学）との姉妹校交流も継続する。今後は環境の変化に伴い、アントレプレナーシップを考慮するなど、より良い計画に修正する必要性が生じている。また25年度より開始した同窓会の支援によるケンブリッジ語学研修も含め、海外8研修の充実に努める。全員参加の台湾スタディツアーを除く、海外研修の参加者の目標を100名以上とする。また海外からの留学・訪問等も積極的に受け入れる。さらに直接海外の大学へ進学できるよう指導に努める。

韓国や台湾のようにアジア圏の学校との姉妹校関係だけでなく、英語圏であるオーストラリアの学校と姉妹校関係を結ぶ。

## (3) SSHの更新と英語力を結びつけた取組みの強化

従来行っているSSH活動は引き続き継続する。28年度は2期目の指定最終年度となるため、来年の更新に向けて次の三点に留意し、更新に備える。

- ① 「理科」と「英語」の連携。課題研究や成果発表での一層の英語力向上をめざす。
- ② 活動の「評価」についての研究を進める。
- ③ 「連携」（高大・中高）を推進

国際科学発表会を開催維持する。またネット環境を活用し、国際的な視野で語学力の向上と科学的探究活動の取組みを充実させる。

## 3. 人権教育の視点での豊かな国際感覚の育成と自律心の醸成

## (1) ユネスコスクール加盟の特色を生かした平和学習・人権学習の充実

本校の多彩な活動の中で、平和学習と人権学習をメインとするESD教育を推進する。特に、ルーツを海外にもつ生徒や障がいのある生徒などの人権を尊重する教育を充実し、海外での国際交流や国際科学発表会の実践を通して豊かな国際感覚の育成を図り、多文化共生の理念を学ばせる。

ESD学習の成果の「見える化」をめざす。

## (2) 国際人として求められるマナーの向上と社会的規範意識の醸成

「住吉是」・「挨拶をする・時間厳守・公共の場の清掃」を徹底させると同時に、生徒の自主自律を更に進め、国際人として必須のマナーやルールを遵守する姿勢を育成する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの提言内容】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【結果】</p> <p>生徒の肯定的回答が7割以上は49項目中43項目（H27:41項目）、8割以上は31項目（H27:25項目）、保護者の肯定的回答が7割以上は37項目（H27:40項目）、8割以上が32項目（H27:24項目）であった。</p> <p>○ 生徒の肯定的回答率が高いもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この学校には他の学校にない特色がある。（94%）</li> <li>・学校でビデオ、スライドなどの視聴覚機器やコンピュータなどを使う機会がよくある。（93%）</li> <li>・先生は授業などでコンピュータやプロジェクターを活用している。（93%）</li> <li>・学校は進路についての情報を知らせてくれる。（92%）</li> </ul> <p>○ 保護者の肯定的回答率が高いもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもは学校に友達がいると言っている。（97%）</li> <li>・この学校は他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる（96%）</li> <li>・学校は、外国から来日した生徒や保護者に対して十分に支援している（95%）</li> <li>・学校は環境、国際理解、福祉ボランティア等の新しい教育課題について学ばせている。（93%）</li> </ul> <p>ほか、90%台が49項目中8項目（H27:3項目）、80%台が20項目（H27:17項目）</p> <p>【分析】</p> <p>「学校・クラスが楽しい」という意見を非常に多くの生徒が持っていることに変化はない。また、国際科学高校である本校の特色をほとんどの生徒や保護者が理解している。加えて、保護者の回答から ICT 等を活用した授業や、新しい教育課題について取組を進めていることに対する理解が高いことは、今年度重点的に進めてきた取組の成果と考えている。さらに3年間を見通した進路指導を開始したことにより、生徒の進路意識も高まっている。</p> <p>自己診断結果からは、大部分の保護者が本校の取り組みに対する理解・賛同を示して頂いていることがわかる。</p> <p>一方で生徒の回答の「授業での実験・観察・実習や校外への見学の機会」に対する肯定率が低い。（49%）1年生総合科学科全員参加の実験合宿、2年生総合科学科の国際科学発表会をピークに、大学進学へ向けた指導が中心となることが一因として考えられる。3年次まで一貫した課題研究や実験・観察等を行う講座の充実等を図る必要がある。また、保護者の回答の「学校からの進路指導面での意思疎通のきめ細かさ」や「学習の内容や進捗等を懇談や通信によって知ることができる」については肯定的意見が少ない。学校からの発信文書は学校のホームページ上で各学年、進路指導部、保健室に分けて閲覧できる仕組みがあり、校長ブログでは毎日学校の様子を発信している。しかしながら、三者面談や進路面談等については、学年や担任によって内容や回数に不統一なところがあることは否めない。住吉高校としてのスタンダードづくりの時期が来ていると捉え、次年度の検討課題とする。</p> <p>なお、「学校のホームページをよく見る」については、生徒、保護者とも肯定的回答率は低い。（生徒49%、保護者59%）ホームページの閲覧性や操作性を改善するとともに、生徒や保護者にとって必要な情報を時宜を得て掲載できるよう、広報体制を確立したい。</p>	<p>第1回（6月22日（水）実施）</p> <p>○ 学力向上の取組みと進路実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住吉高校として進路指導をどのような目標設定とするのか。所謂難関校に挑戦し、大阪を越えて活躍するリーダーを育成するのか、大阪で活躍する人材を育成するのか。学校としてのポリシーを明確に打ち出すべき。</li> </ul> <p>○ 生活指導と規範意識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝から10人の先生方が、正門等で生徒の登校や自転車の指導を行っているのは、よく頑張っていると思う。一方で忙しい住吉の先生方が、無理なく取り組めるような体制整備やシステムづくりも必要ではないか。</li> <li>・昨年度の協議会で課題となっていたテニスコート横の違法駐輪がなくなったのは、学校として取り組んだ成果。</li> <li>・遅刻件数の減少も一過性になってはいけない。継続して減少できるように、先生方が一丸となって頑張ってもらいたい。</li> </ul> <p>○ スーパーサイエンスハイスクール（SSH）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取組みが後手になっている印象がある。課題に対しては、住吉の特色や強みを生かして積極的に取組みを進めてほしい。</li> <li>・28年度で5年間の研究期間が終了する。次期申請へ向けて成果と課題をデータやアンケート分析等により精緻に行う必要がある。</li> </ul> <p>第2回（平成27年10月14日（金））</p> <p>○ 学力向上の取組みと進路実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎知識が定着していない状態では、アクティブ・ラーニング（AL）も効果が上がらない。授業の中でどのようにALを実現し成果をあげていくのかプランの策定が必要。</li> <li>・「思考力・判断力・表現力の育成」が求められているが、好き勝手に表現すれば良いというものではない。生徒一人ひとりが「なぜそう考えるのか」ということを考える習慣づけが大切。</li> <li>・進路指導については「生徒たちがどうしたいか」が大事である。生徒の考えをくみ取って学校全体が動き、希望進路の支援や具体的な指導をするような体制づくりを進めてほしい。</li> </ul> <p>○ 生活指導と規範意識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな行事が数多くある。生徒が落ち着いて学習に向かう時間が確保できているか。行事の精選を行い、生徒の学習時間を確保すべき。</li> </ul> <p>○ スーパーサイエンスハイスクール（SSH）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SSHの取組みは全校体制で進め、総合科学科、国際文化科の協働で続けていくべき。</li> <li>・SSH校ということに対する中学生や保護者、府民からの期待は大きい。</li> <li>・SSHに特化した教育のみではなく、行事や部活動などさまざまな教育活動とのバランスも考えて取組みを進めることが重要である。</li> </ul> <p>第3回（平成29年2月24日（金）開催）</p> <p>○ 学力向上の取組みと進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現行の行事等をより精選して、家庭学習を含む生徒の自主的な学習の時間を確保する必要がある。</li> <li>・生徒の進路意識を向上させる指導と学校全体での雰囲気作りが必要である。</li> <li>・進路指導室に来室する生徒が増加したことは良い傾向である。今後も生徒がチャレンジ精神を持って、より高い目標に挑めるような指導を行うことが重要である。</li> </ul> <p>○ 生活指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年遅刻数は激減できたが、今年は若干増加している。寝坊などの遅刻は認められるものではない。遅刻者数が減少するような生活指導の工夫が必要である。</li> <li>・携帯電話（スマートフォン）の依存度が高い生徒がいる。携帯電話の使い方に関しては日常の指導とあわせて、家庭でのルール作りなど、家庭との連携が必要である。</li> <li>・盗難防止については個人ロッカーの活用等、自己の所持品の管理をきちんとできるよう、粘り強い指導が必要である。</li> </ul> <p>○ 住吉改革委員会（SIC）の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「カリキュラム」「授業改善」「ICT」の3つのグループからなるSICの取組みは、最終的に一本化して住吉高校の運営全体に還元することが求められる。</li> <li>・カリキュラムの改編や行事の精選・効率化についてもSICで議論を重ねるべきである。</li> </ul> <p>※第3回学校協議会にて、平成28年度学校経営評価案、平成29年度学校経営計画案について委員から了承を得た。</p>

3 本年度の取組み内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力向上の取組み強化	<p>(1)「わかる授業」をめざして、教科指導力の向上 ア 授業アンケートの活用と公開授業の促進 イ・ICTを活用した授業の推進 ウ・カリキュラムの見直し</p> <p>(2)進学指導の充実 エ・放課後、土曜日の補習・講習の充実 オ・自習室の活用を推進</p>	<p>ア・SIC(住吉改革委員会)内に指導力向上委員会を設置し、授業アンケート分析を踏まえた改善のための面談を行う。全教員への意識啓発と年3回以上の相互公開授業を行う。 ・経験の少ない教員への教科指導力向上の公開授業を推奨し、首席主催の指導力向上委員会を開催し、経験の少ない教員への組織的支援体制を強化する。 ・授業アンケートの評価の低い教員に対して指導。 イ・ICT 機器や、タブレット型PCを強化し活用を進める。 ウ・指定校推薦を希望する生徒が増加している。その原因の一つにカリキュラムがある。これの見直しをする。 エ・教員による放課後、土曜の補習・講習会を全体的に進める。5教科の実施をめざす。 ・PTA主催の教育産業による土曜講習会を本年度も実施し、2クラス同時開講をめざす。 ・教育産業との連携を強化(各学年3回は全員に模試を行う。3年生はさらに希望者に対し3回実施する)し、3年間を見通せる進学指導をする。 オ・現在の本館自習室は3年生が使用、1年生・2年生の北畠会館自習室を更に活用する工夫を行う。</p>	<p>ア・学校教育自己診断、授業アンケートで「授業がわかる」の回答率 80%を目標。(H27:73%) ・自己診断の「経験の少ない教員を学校全体で育成する体制」の項目の肯定率を70%以上とする。(H27:58%) ・校長の学習会に対しては、経験の少ない教員のアンケート結果で判断する。 ・全教員アンケート結果が「3」を上回る。 イ・タブレット型PCの活用教員率、40%を目標。 ウ・センター試験受験者を200名台にする。(H27:143名) エ・放課後等の進学講習・補習の開催を5教科で実施。(H27:3年生は英、数、国を早朝、放課後、長期休暇中実施。2年は数学の早朝、1・2年は英、数、国を長期休暇中実施。) ・PTA主催の教育産業による土曜講習会を本年度も実施。参加生徒数は100名以上を目標。(H27:約40名) ・教育産業との連携で、偏差値アップと国公立大学進学希望者を増加させる。センター試験受験者を200名台をめざす。 オ・一年・二年の北畠会館自習室活用を2割増を目標。(H27 定期考査前平均20名、平常時平均5名)</p>	<p>ア・授業内容に興味・関心を持った:75% (○) ・知識・技能が身についた83% (○) ・9回の研修と授業見学を行った。また外部の学校説明会や学校協議会の記録等、学校運営にも積極的に参加させた。「経験の少ない教員を学校全体で育成する体制」の項目の肯定率75% (○) ・アンケート85%が組織的支援体制に肯定的回答 (◎) ・授業アンケートは全教員3.0以上とならず。(△) イ ICT 機器を使用し授業を展開している教員は93% (◎) ウ・センター試験は194名 前年度比1.4倍 (△) 国公立大学(H27→H28) 理系平均点 540→553 最高797→800.8 文系平均点 599→632 最高763→771.8 エ・3年は長期休暇中に5教科講習を実施。早朝・放課後に3教科(英語・数学・国語)展開した。 2年生は 長期休暇中は4教科(英語・数学・国語・理科)展開した。1年生は、長期休暇中3教科(英語・数学・国語)展開した。(○) ・PTA主催の教育産業による土曜講習(北畠講習)は29名と目標は下回った。指定校推薦希望者増加と土曜講習受講者の減少が継続課題 (△) ・センター試験 出願者 194名(9%増) 受験者 165名(13%増) 国公立型受験者数 101名(前年比22名増) (○) ※国公立大学現役合格者数 27→37 (○) オ・学年全体で取り組み、例年並みに自習室は稼働した。(○)一年、二年の北畠会館自習室活用は、定期考査前平均30名(○)</p>

## 府立住吉高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 国際・科学高校としての取組み強化</p>	<p>(1)グローバル人材育成の強化 ア TOEFL 対策の Super English の開講を維持 イ土曜 TOEIC 講習の維持とハイスコア生徒の育成 ウ使える英語力の向上と英語ディベート等の充実 (2)国際交流・海外語学研修の充実 エ これまでの8事業の維持と円滑な運用 (3)SSHと連携した取組みの実施 カ SSH 事業の海外校が参加する国際科学発表会</p>	<p>ア・TOEFL 対策科目「Super English」に生徒 60 名以上、昨年度に続いて 2 クラス以上開講を目標。 ・受講者の平均スコアを府平均の 10 点越えを目標とし、80 点台生徒を4名、60 点以上 25 名を目標。 ・SET との連携を強め、一層の TOEFL 対策を考える。 イ・保護者の要望により土曜 TOEIC 講習会を実施する。 ・TOEIC 受講者の平均スコアを 550 点越えを目標とし、また、700 点台生徒を複数育成する。 ウ・英語ディベート大会の公開を行い、他校とのディベート大会の開催(かなりハードルが高いので大阪府教育庁とも連携)を目標。 また時代の変化に伴い、アンタープレナーシップ・ネゴシエーションという考えを導入する。 エ・労力対効果を考慮しながら、より実績が上がるよう工夫する オ・SSH 事業として韓国・台湾から高校生・教員を招聘する国際科学発表会の開催を継続し、その内容の充実をめざす。 ・国際科学会議に向け、日常的に科学英語力の強化を図る。夏季休暇に「理科英語」の集中講座・英語でのディベートのための研修を設定する。</p>	<p>ア・TOEFL 対策科目の開講を 2 クラス以上をめざす。 (H27:1クラス) ・平均スコアが府平均を超え 80 点台4名、60 点以上を 25 名を目標。(H27:80 点台 0 名、60 点以上3名) イ・保護者の要望により実施 ・TOEIC の平均スコアが 570 点を超えることが目標。 ・700 点台取得者複数育成。 (H27:平均 417 点、700 点以上1人) ウ・英語ディベート大会を実施し、他校からの見学者を勧誘。複数校の参加を目標。 ・ディベートを発展させネゴシエーション形式の授業に移行。(H27 はディベート形式) エ・生徒の満足度 90%以上 (H27 年度においては、海外研修はすべての事業において募集人数を大幅に超える希望者があり、参加者は非常に満足しているものと考えられる。) オ・韓国・台湾からの高校生を招聘した国際科学発表会の開催を継続。SSH事業アンケート結果の満足度 100% 達成(H27:内容理解 79%、企画の面白さ: 88%、興味・関心の増加: 84%、自分自身の取組み: 92%) ・校内での科学英語のプレゼン活動を実施。</p>	<p>ア・水曜日の開講であったが今年の水曜日・木曜日 Super English 開講 1年2クラス、2年1クラス(○) ・チャレンジテスト受験者 1年22名、2年42名(○) ・今年度 TOEFL は一回のみ実施。年度末までに受験予定であったが、機械の不具合等により全員は終了していない。 H28: 80 点台 0 名 70 点台4名 60 点台2名 50 点以上 12 名 最高 100 点 (△) イ・TOEIC は3月上旬1、2年生の TOEIC 講習者が受験 H28:平均 427.4 点、700 点以上1人(875 点) ・800 点を超える生徒が1名出た。(△) ウ・1年英語合宿での学習を経て2年次に学習の成果発表の機会としてディベート大会を実施。決勝戦は他校の見学者にも公開する予定だったが、他校生徒の参加は実現できなかった。(△) ・英語の通常授業の中にディベートもネゴシエーションも、アントレプレナーシップ含まれている。(○) エ・海外研修は参加希望者が多い。(平均 3.2 倍) 参加した生徒は、非常に満足している。 「よかった」「とてもよかった」を合わせると生徒の満足度 100 % (◎) オ・韓国招聘は交渉を続けているが実現していない。台湾とは継続的に交流を進めており招聘を実現。国内の SSH 校からも2校が参加。(○) ・生徒による評価アンケートでは「内容の理解」の項目においては8割が肯定的、「企画の面白さ」、「興味・関心の増加」、「取り組みの度合い」の項目においては9割が肯定的な回答をしている。(○) ・11 月に台湾での国際学会で国際共同研究の成果を発表—”the Truth of Global Warming” ・ポスターのアブストラクトは全員英語を使用。またSSEを通じ英語でのプレゼンの授業を継続。(○) ・国際科学発表会にて、英語での口頭発表(2グループ)、ポスター発表(2年全グループ)を実施。運営指導委員より高い評価を得た。(○) SSH 事業アンケート満足度は 90% (△)</p>
---	--	--	---	---

## 府立住吉高等学校

<p>3 人権教育の観点で豊かな国際感覚の育成と自律心の醸成</p>	<p>(1)ユネスコ・スクールの特色を生かす活動を強化 ア海外研修、国際科学発表会等の活動でユネスコの特色を発揮 イ 国際交流を通じて、体験的に共生意識を育む</p> <p>(2) マナーの向上と社会的規範意識の醸成 ウ 時間を大切にす る取り組みを行う。TPO に応じた標準着用指導と頭髪指導を強化する。</p>	<p>ア・ユネスコスクールとの国際交流校を積極的に拡大し、国際交流機会を増やす。ESD 教育の成果を、具体的に「見える化」する方向を探る。</p> <p>イ・本校の帰国渡日生を支援する GL(グローバルライフ)委員会の活動を充実させる。</p> <p>・HR活動を中心に生徒の多様な人権学習を維持。1年での在日生のカミングアウト、本名使用の指導、LHR での人権講演会を継続して実施する。</p> <p>ウ・「住吉是」・・・「挨拶をする・時間厳守・公共の場の清掃」の徹底を図る。具体的には</p> <p>・挨拶の励行 ・遅刻指導 ・集合等の時間厳守 ・公共の場を、「きれい」から「快適に」をめざす。</p>	<p>ア・「見える化」の具体例を出す。</p> <p>イ・HRでの生徒人権研修を年間開催8回を維持。(H27:5回)</p> <p>・教職員向け人権研修会の年間開催3回を維持。(H27:研修2回に加え、事案があるたびに校長より訓話を実施。)</p> <p>・教員研修の内1回は、新しいテーマとし、時代に応じたテーマで実施。</p> <p>・教職員の人権研修会の全員参加が目標。(H27:ほぼ全員参加)</p> <p>ウ・引き続き遅刻指導の強化、年間 2000 件台維持を目標(H27:2985 件)</p>	<p>ア・カンボジア研修の成果を、ユネスコ委員会主催、「ワンワールドフェスティバル」において発表。また他の高校や近隣の小学校でもプレゼンを行った。(○)</p> <p>・大阪ユネスコスクールネットワークの学校として、8月熊本大震災に関する学び合いと、例年通り12月に中国と韓国のユネスコスクールとの学び合いを実施。学校独自の交流としては、ニュージーランドのユネスコスクールとの交流を実施した。(○)</p> <p>・1年総合的な学習の時間において、国際、人権、環境などに関する講演を4回実施した。1年生全員2月に外務省「高校講座」を実施した。(○)</p> <p>イ・1年2回、2年1回、3年1回、計4回実施 (△)</p> <p>「e ネット安心講座」「LGBT の理解」「ブラックバイトと奨学金について」</p> <p>・教員向け全体研修は3回。うち1回は概ね全員参加。(○)</p> <p>・発達障がいのある生徒の特性と教育現場での支援に関する研修を実施。(○)</p> <p>・全員参加(○)</p> <p>・GL 委員会より帰国・渡日生徒の成績状況等についての報告が情報共有のために定期的に行われた。日本語教室、多言語チューターの活用で日本語指導を行った。(○)</p> <p>・本名使用の指導、母国語や継承語での活動など様々なルーツを持つ生徒のアイデンティティを大切にす活動を行った。(○)</p> <p>ウ・遅刻は 3355 件と昨年度より 370 件(12%)増加している。(△)(指導の成果で遅刻が減少している学年(2学年)もある。)</p> <p>保健部、事務室の連携により、校内の美化、教室等の整理整頓がほぼできている。(○)</p> <p>挨拶について朝の声かけ等により、生徒はしっかりと挨拶ができるようになってきている。重点課題として次年度も継続する。(○)</p> <p>・学年団を中心とした指導の結果、頭髪や服装において高校生活にふさわしいものになってきている。(○)</p>
--	---	---	---	---